平成２７年度　地域づくり海外調査研究事業調査報告書

豊かな自然環境を活かした観光振興

調査地：ドイツ・バイエルンの森国立公園

調査日：平成２７年７月２日

平成２８年３月

一般財団法人　地域活性化センター

振興部　地域支援課

一木　瑞恵

目　次

１．はじめに・・P1

２．ドイツ・バイエルンの森国立公園
（１）概要・・・P1
（２）設立の背景及び運営体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2
（３）コンセプト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3
（４）代表的な施設及び取組内容
　（ア）ハンス・アイゼンマン・ハウス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3
　（イ）ツリー・トップ・ウォーク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6
（５）課題と今後の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P8

３．考察　・・P8

４．おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P9

１．はじめに

2014 年 3 月、ドイツ連邦環境省と連邦自然保護庁が公表した調査研究において、生物圏保護区が生物多様性の保全だけではなく、観光資源として地元経済に貢献していることが示された。（※「生物圏保護区」は、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としており、保護・保全だけでなく自然と人間社会の共生に重点が置かれている。なお、日本国内では「ユネスコエコパーク」の呼称が用いられている。）また、ドイツにおける国立公園は生物多様性の維持に貢献し、農村地域の価値を高め、持続可能な観光における雇用を創出するなど、国民にとって高い価値を持つことがドイツ連邦環境省の行った調査で示されている。

これらの調査結果を見ると、ドイツの生物圏保護区や国立公園では、豊かな自然環境が観光資源としても有効活用されていると言える。なかでも、バイエルン州にある「バイエルンの森国立公園」は、「全て自然のままに」をコンセプトに、森林の保護に取り組みながらも多くの観光客を集めるなど、観光による発展を遂げている地域であることから、今回の調査地とすることとした。

本報告書では、豊かな自然環境を活用して持続可能な観光振興を進めるためにはどのような視点を大切にすべきかについて、バイエルンの森国立公園への調査結果をもとに考察を行うこととする。

２．ドイツ・バイエルンの森国立公園

（１）概要

バイエルンの森国立公園（正式名称：Nationalpark Bayerischer Wald。以下、「バイエルンの森」という。）は、1970 年にドイツで初めて設立された国立公園である。ドイツ南部に位置するバイエルン州にある中央ヨーロッパ最大の森林保護地域であり、生物圏保護区にも指定されている。なお、この森林はドイツの東隣国であるチェコにもまたがっており、チェコ側の森林はボヘミアの森と呼ばれている。（ボヘミアの森は、東西冷戦の終わった直後の 1990 年に国立公園に指定されている。）ドイツ側は 2 万 4 千ヘクタール、チェコ側は 7 万 5 千ヘクタールと、広大な面積を誇る森林地域である。

バイエルンの森は、国立公園と生物圏保護区の両方に指定されている。このことから、自然がそのままの状態で保護されるよう配慮しながらも、持続可能な発展のための活用が図られている地域であると言える。

ドイツ第 3 の都市であるバイエルン州都のミュンヘン（人口約 140 万人）からは、快速電車（RE）と車を乗りついで約 3 時間半の距離にある。こうした都市部からは森林浴を楽しめる保養地として知られており、牧歌的な風景を楽しめるハイキングやサイクリングなどの野外レクリエーションが高い人気を集めている国立公園である。

今回の調査では、ビジターセンターの副課長であり、観光振興を主に担当しているクリスチャン・ビンダー氏に話を伺った。

【写真】広大な森林面積を誇るバイエルンの森国立公園

【図】調査地位置図

（２）設立の背景及び運営体制

バイエルンの森の当初の設立目的は、「観光振興」であった。バイエルンの森が設立された地域は東西冷戦時代に困窮していた地域であり、州政府は地域の振興策として国立公園の設立を模索していたという。

国立公園の設立及び運営の主眼点が「観光」であったということからもわかるように、バイエルンの森は自然環境保護の観点より、自然を活かした地域振興の観点から設立されたと言える。なお、国立公園が設立されてから地域を訪れる観光客数は急激に増加しており、現在ではバイエルンの森を訪れる観光客数は年間 130 万人に上る。

また、バイエルンの森は「国立公園」という名前ではあるものの、国ではなく州が運営を行っている（ドイツは連邦国家であるため、国立公園には州の関与が強くなっている）。ドイツの国立公園は各州の法律によって規定されるとともに、管理も州政府によって行われている。なお、バイエルンの森の年間予算は約 1,200 万ユーロだが全て税金から支出されており、職員は全て州政府の公務員である。

バイエルンの森の従業員数は約 200 人である。林業・文化・手工芸など、様々な分野の従業員がいることで公園内の多種多様な整備を自力で行えるというのが利点だ。また、公園の従業員だけで解決できないことに関しては、周辺自治体に協力を仰いでいるという。

（３）コンセプト

「全て自然のままに」というのが基本のコンセプトになっている。これは、「自然に起こることは全て自然のなすがままにする」という意味である。具体的な例を挙げると、バイエルンの森ではキクイムシの被害があっても放置し、天然更新させることで多様な生態系を維持している。また、山火事が起こった場合、自然的な原因のものについてはそのまま放置するが、人為的な原因（タバコのポイ捨てなど）のものについては対策を行う。このように、基本的には「全てを自然のままに」というのが徹底されているが、一部例外のものもある。例えば公園内には、森に生息する動物を見ることができる施設があるが、これは「全てを自然のままに」というコンセプトと矛盾するのではないかという議論もあるという。しかし、こういった仕掛けがないと観光客は動物を見ることができないということもあり、現時点ではそういった仕掛けも容認されている状況ということであった。

【写真】野生の鳥など動物を見ることができる

（４）代表的な施設及び取組内容

（ア）ハンス・アイゼンマン・ハウス

ハンス・アイゼンマン・ハウスは、バイエルンの森国立公園内に設置されたビジターセンターである。ドイツ初の国立公園のビジターセンターでもある。

バイエルンの森を訪れる観光客向けの総合案内所となるインフォメーションは、ドイツ語と英語とチェコ語に対応しており、近年増加傾向にある外国人観光客への対応も可能となっている。なお、冬場の観光客の 6 割はチェコ人であることから、チェコ語にも対応できるように職員が配置されている。また、インフォメーションでは、観光客の詳細なモニタリング調査を随時行っている。調査項目は主なものとして、年齢層・職業・訪問目的・利用交通機関・消費額などが挙げられる。ビンダー氏によると「観光客を属性で区分けし、それぞれが地域経済に与える効果・影響を分析している」そうだが、こうした調査結果は、

広報・宣伝ターゲットを見極める際に大変役立っているという。

【写真】ハンス・アイゼンマン・ハウス外観

【写真】インフォメーション

バイエルンの森では地産地消の観点を大切にしていることから、ビジターセンターなどの施設を建設する際に使用する木材・石材には周辺地域のものが使用され、地域の伝統的な農家の家屋をイメージして建てられている。また、ビジターセンター内にはカフェやグッズ販売所を併設しており、周辺地域で作られたものが販売されている。調査時にも、カフェのガラスケースには地域の食材で作られたケーキが数種並んでいた。ビンダー氏によると「カフェで提供するものは、コーヒー豆以外は地元のもの」ということであった。

【写真】カフェには地域の食材で作られたケーキが並ぶ

【写真】グッズ販売所の外観

ビジターセンター内の展示は、説明文が少ないものが多く、体験型の展示など五感に響くものが意識して取り入れられている。これにより、子どもや外国人観光客でもわかりやすく親しみやすい展示となっていた。また、文化・芸術に関する展示も取り入れることで、アートとのつながりも意識しており、地域の音楽コンサートを敷地内で開催するなど文化的な面でも地域住民から利用されている。なお、展示内容は先に述べたインフォメーションでのモニタリング調査結果を参考に定期的に変更を加えているということであった。具

体的には、「小さい子ども向けの展示が少ない」という声が上がっていたことから、子どもが遊びながら自然環境に親しみを持てるようなものとしてボルダリングのゾーンを作るという計画が進めているということであった。

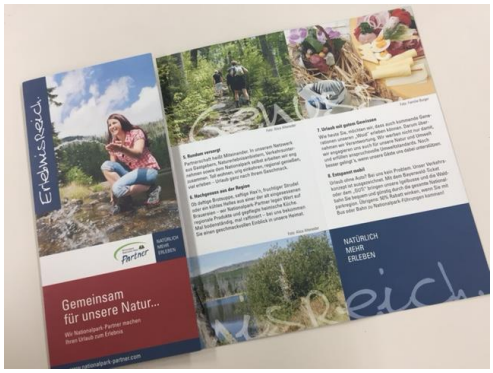
【写真】展示は子どもが体験しながら学ぶことができる内容になっている

環境先進国ドイツで初の国立公園ということもあり、バイエルンの森のビジターセンターでは環境教育を大変重視している。州内はもちろん、州外からも小中学生の受け入れを行っており、主催するガイドツアーは 1 年先まで予約が埋まっている状況である。高い人気を集めているガイドツアーだが、こうしたツアーを担うガイドの養成には大変な力が入れられている。ガイドの養成研修は約 2 週間かけて行われ、最後は試験で認定を行うが、不合格になるケースも少なくないという。ガイドに求められる知識量は非常に多く、森林や動植物、管理体制に関する事柄など、多岐にわたる専門知識を有してはじめてガイドができるようになると考えられていることから、試験も厳しいものになっているのだという。また、合格後も定期的に研修を受講しなければならないなど、ガイドに求められるスキルは非常にレベルが高い。なお、こうしたガイドはボランティアではなく、国立公園のガイド協会に所属するガイドであり、国立公園側から手当を支給しているということであった。

バイエルンの森では、地域の民間企業（レストランや宿泊施設）との連携も重視している。ビジターセンター内のカフェ等での販売だけでなく、周辺のレストランや宿泊施設とも提携し、相互に宣伝を行っている。提携先の入り口には共通のサイン（マーク）が掲示されており、周辺地域で統一されたイメージの形成に役立っている。どの施設を提携先にするかは、バイエルンの森が定める基準を満たしているかどうかで判断がなされている。基準の例としては、「郷土料理を提供するレストランか」「地域の食材のみを使っているか」「環境保護に力を入れているか」などがあるが、こうした基準をどの程度満たしているかにより、提携先を決定している。提携先決定までの具体的な流れは、バイエルンの森側が基準に基づき周辺のレストランや宿泊施設をレベル分け（星評価）し、三ツ星以上であれば提携先に認定するといったものである。なお、バイエルンの森では観光客からおすすめのレストランや宿泊施設を聞かれた際には、こうした基準を満たしている提携先を積極的に紹介している。こうした取り組みだけが理由ではないものの、質の低いレストランや宿

泊施設が淘汰されていき、結果的には周辺施設の質の向上が図られているのだという。なお、提携先にはバイエルンの森側から定期的に研修を開いており、質の維持にも力が入れられている。

【図】提携民間企業との共通サイン



【写真】提携先の情報が掲載されたパンフレット

（イ）ツリー・トップ・ウォーク

ドイツ国内に 3 つあるツリー・トップ・ウォークのうちの 1 つが、バイエルンの森に存在する。ツリー・トップ・ウォークとは、森の中に設置された遊歩道のことである。森林の中にあっても馴染むように、木材を主体に作られている。この遊歩道は地面から 8 メートルから 25 メートルの高さに作られており、空中を散歩するような感覚で森林浴を楽しむことができる。遊歩道の全長は 1.3 キロメートルであり、最終地点には高さ 44 メートルの卵型の展望台が作られている。なお、展望台を上がるスロープも含めた遊歩道のコースは全てバリアフリーとなっており、車いすでもベビーカーでも通行が可能だ。また、展望台のスロープは「木を一番下から一番上まで観察できるように」という目的で、中央の数本の木を囲むように、らせん状の形に作られている。

ツリー・トップ・ウォークは、土地は国立公園側が提供したが、建設等は民間企業が行うという官民連携の共同事業である。計画・発案後の建築申請からは約 6 か月で完成しており、民間企業ならではのスピード感が活かされた事業だと言えるだろう。なお、建設費用は約 300 万ユーロであり、建築デザインは地元の建築家により行われている。

調査時にツリー・トップ・ウォークを歩いた印象としては、森林内の木々を縫うように遊歩道が作られており、自然に調和するように配慮されているという印象を受けた。遊歩

道の手すりのすぐそばには木があるため、実際に木を触わったり揺らしたりすることができる。森や木を間近で見て、触れて、そして森に住む鳥のさえずりを聞いて、森の空気のにおいを嗅いで、と五感で森を楽しめる工夫がされていると感じた。

【写真】ツリー・トップ・ウォーク（遊歩道）

【写真】ツリー・トップ・ウォーク（展望台）

【写真】展望台の内観

普通の歩道コース以外にアスレチックのような遊び心を加えたコースも併設しており、子どもから人気を集めているという。なお、定期的に新しいアスレチックコースや休憩所を増設するなどして、リピーターを飽きさせないよう工夫がされている。

【写真】コースから木を触ることができる

【写真】併設されたアスレチックコース

ツリー・トップ・ウォークのコンセプトは「なるべく自然に触れて、ただし入り込むことなく」というものである。普段国立公園に足を踏み入れないような人でも国立公園のほとんどがわかるようにという配慮から、森を楽しみながら学べるような案内板も数多く設置されている。なお、ツリー・トップ・ウォークは有料（一人 8.5 ユーロ）だが、ビジターセンターよりも訪問客数が多いことから、バイエルンの森を象徴するアイコンのような役割も果たしていると言える。

ビンダー氏によると、「ツリー・トップ・ウォークなどの遊歩道コースを整備したことにより、訪問客のほとんどがこの遊歩道を通るので、森の中がむやみに踏み荒らされないというメリットがある」ということであった。

（５）課題と今後の展望

バイエルンの森は 1997 年に国立公園の領域を拡大しているが、拡大する直前には大きな反対運動が起こっている。反対運動の理由は、国立公園化することによって地元の林業に制限が加わることへの懸念など、経済的なものが主だったという。また、国立公園化することにより、森林は「全て自然のままに」しなければならないため、キクイムシの被害があってもそのまま放置することに対し、「キクイムシに森が荒らされるのはもったいない」という意見も多かったそうだ。こうした反対派との協議は、現在も年に 2 回程度行われている。なお、反対派や周辺自治体、環境団体も含めた協議において、「2027 年までに領域内の 75%を『段階的に』国立公園化していく」ということで合意が図られており、現在、段階的な国立公園化は領域内の区域を細かく設定して進行状況を管理しているという。

ビンダー氏に今後の展望を聞いたところ、「これから先もずっと今まで通り自然が維持されてほしい。そのためにこれまでも努力してきたし今後も努力していく」ということであった。

３．考察

バイエルンの森のコンセプトは「全て自然のままに」である。この言葉は、今回の調査の際にビンダー氏が何度も口にしていた。この言葉の通り、国立公園化することによって自然環境の保護は厳しく行われるものの、来訪者にそのままの姿を見せるというわけではなく、見せ方にすべて工夫がされている。例えば、ツリー・トップ・ウォークでは通常森の中を歩く場合では味わえない、森を空中散歩するという感覚を楽しむことができる。地上 8～25 メートルの位置にあるコースから森を眺め、木々に触れることで、見え方が変わる楽しさを体感することができる。また、遊歩道やビジターセンター内の展示は、誰にでもわかりやすいものとなるよう体験型のものが随所に組み込まれ、長い説明文を読まなくても五感で体感できるように工夫がされていた。さらに、ガイドの養成という点では、地域を語れる話し手を、時間をかけて厳しく育成することで、質の高い案内や説明が保たれ、バイエルンの森の価値自体も高められていると言える。こうしたことをまとめると、来訪者を楽しませるための「演出」に全て工夫があると感じた。

また、来訪者の目線に立った細やかな配慮も印象に残っている。バリアフリーの遊歩道は誰にとってもやさしく、提携しているレストランや宿泊施設の質の高さは地域を訪れる来訪者の安心感にもつながっている。また、提携先の民間施設の入り口やパンフレット等に共通のサインを掲示することで周辺地域のイメージに統一感が生まれ、来訪者の安心感につながっている。さらに、環境教育を重視して地域の子どもたちにプログラムを提供することで、地域の子どもたちの自然環境への愛着心を育み、将来的には地域で地域の自然について語ることのできる人材の育成にもつながっていると言える。地域のことを魅力的な語り口で紹介できる人材が育てば、来訪者が地域を訪れた際に抱くイメージも向上しやすいだろう。時間がかかる取り組みではあるが、結果的に地域の付加価値も向上する取り組みとなっている。このように、来訪者を迎えるための心配りやおもてなし力の高さというのも今回の調査において印象に残った点であった。

４．おわりに

どんなに価値が高い自然であっても、そのままの姿、原石のままでは魅力は伝わりにくい。今回の調査地であるバイエルンの森では、来訪者を楽しませるための演出、見せ方の工夫が随所にちりばめられていた。また、バイエルンの森の取り組みの根本には、相手の目線に立った配慮というのが共通しているということを感じた。「来訪者に楽しんでもらいたい」という心配り、相手目線の感覚というものの大切さを感じた海外調査でもあったと言える。観光振興策などを考えるうえでは、こうした視点は忘れてしまいがちになるが、大切にしたい視点であると改めて感じた。

最後に、今回の調査研究にあたり視察を受け入れていただいたバイエルンの森国立公園のクリスチャン・ビンダー氏及び職員の皆様に心より感謝を申し上げて、報告書の結びとする。

【参考文献・ホームページ等】

・「地域旅で地域力創造　観光振興と IT 活用のポイント」2011 年・学芸出版社（佐藤喜子光・椎川忍）
・「国立公園と生物圏保護区　人間と自然のための区域」環境省中部地方環境事務所：https://chubu.env.go.jp/pre_2009/data/1104a_2.pdf
・バイエルンの森国立公園：http://www.nationalpark-bayerischer-wald.de/
・国立研究開発法人国立環境研究所：http://tenbou.nies.go.jp/news/fnews/detail.php?i=13034